

7 昔と今の米づくりにはどんなちがいがあるの？



月	4月	5月	6月
しごと	苗を育てる	肥料をまく → 田おこし → しろかき → 田植え	水を調節する 雑草や病害虫から稲を守る（農薬をまくなど） 中ぼし※ みぞきり※
稲のようす	種もみ → 水やり → 水やり → 光にあてる 水やり → 12cm位で田植え		

田おこし しろかき

水田にたい肥や肥料をまき、トラクターでたがやします。ここに、水をはって、さらに土をこまかくし、田んぼを平らにします。

田植え

温かいビニールハウスで育てた苗を、田植機で植えます。10列同時に植えられる大型の田植機もあります。

今のじょうと



むかしのじょうと(昭和30～40年代)

人や牛馬による田おこし

人や牛・馬の力で田をたがやしていました。




人による田植え

人が苗を田んぼに植えていました。



※中ばし……田んぼを乾かし、稲の生育を調節する作業です。
 ※みぞきり…田んぼにみぞを掘り、水の通り道をつくる作業です。

7月	8月	9月	10月
肥料をまく	肥料をまく	稲刈り → 乾燥 → もみすり → 出荷	
	穂が出る 稲の花		新潟米

稲刈り

こがね色の稲穂がたれ下ると稲刈りです。コンバインは刈りとりたてで同時にできずす。
 ※だっこく…稲からもみははずすこと



動画資料


乾燥

この建物はカントリーエレベーターといって、おおぜいの農家がコンバインで収穫した「もみ」を運び、まとめて乾燥やちようを行う大きな施設です。もみすり機でからをむいて、玄米にしてから出荷します。



かまを使った稲刈り

かまを使って稲を刈っていました。



はさかけによる乾燥

はさ木という農道や庭にある木にぼうをしぼり、そこに刈った稲をかけて、何日もかけて乾燥させました。

